

LMSを活用した授業実践

—Moodle利用法マニュアル（2）—

コース開設編

龍 昌治

1. Moodleの利用

Moodleは、大学の授業運営にあわせた設定ができるようになっている。世界中で利用・改良が行われており、Moodleのメニューなど各画面で使われている用語も、大学の実情に合わせてありなじみやすい。英語だけでなく、日本語やドイツ語、中国語など、各国の用語にあわせて変更することもできる。使用言語は、あらかじめ管理者が設定しておき、用語も変更が可能である。ここでは、日本語版表示で記述するが、一部、筆者ら独自に用語を変更している部分もある。たとえば、各学生らの氏名表記は、英語版では `firstname` と `familyname` であるが、一覧性を配慮して、それぞれ氏名と学籍番号に変更している。

本編では、筆者の運営するMoodleサイト（Ver1.6.3）を用いて、基本となるコース開設の手順と利用例を説明していく。

2. コース追加

大学における授業科目に相当する単位



図1：トップ画面例



図2：カテゴリーとコース

を、Moodleではコースと呼ぶ。このコースは、学部名などのカテゴリとともにトップ画面に表示され、Moodle利用の入り口となる。

作成途中のコースや学期が終了した場合は、「学生に表示しない」設定をすることもできる。表示しないコースは、教員IDでログインした時のみ、薄くグレーで表示され、学生には表示されない。

コースを開設するには、教員IDでログイン後、コースカテゴリ一覧から、学部名などのカテゴリを選択し、「コース追加」ボタンを押す。このカテゴリは、いつでも変更が可能である。

なお、コースを追加編集には、教師権限が必要である。コース追加ボタンが表示されない場合には、管理者にコース開設をリクエストし、該当コースの教師権限を与えてもらうことになる。

3. コース編集

コース編集では、コースの名称や開設期間などを設定する。ここでも〔カテゴリ〕を変更することができる。

〔名称〕は、授業科目名である。文字数などの制限はないが、通常の授業科目名と同じにすることに加えて、実施年度などを加えておくと、次年度以降区分しやすい。

例) 情報処理論 (2008春)

2008社会調査法 など



図3：コースの追加

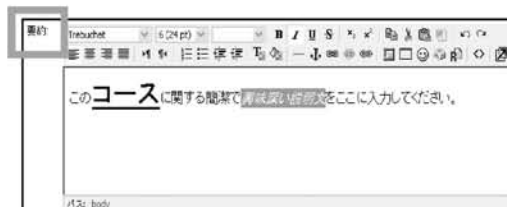
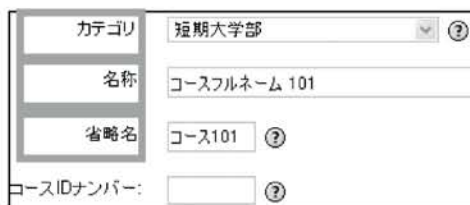


図4：コース編集

〔省略名〕は、常にMoodleのページ画面上部に表示され、ページナビゲータの役割を果たす。また、受講生らへ送るメールの題名などにも使われるため、簡略で他のコースと重複しない名称が望ましい。

〔要約〕には、コースの概要を記入する。ワードプロセッサのような文字サイズ変更などの修飾や、HTMLコード、イメージなどを記入することもできる。この記述は、Moodleのカテゴリー一覧に表示される。シラバスなどの授業内容を記述することもできるが、実際の履修生は参照する機会が少ないため、詳細な記述は不要であろう。

なお、〔コースIDナンバー〕は科目コードなどを入力するが、内部コードであるため省略してもかまわない。

〔フォーマット〕では、毎週1回の日程を表示できる「ウィークリーフォーマット」(標準)のほか、授業回数のみを設定する「トピックフォーマット」、ディスカッションやフォーラム中心の「ソーシャルフォーマット」、市販や自作のSCORMパッケージ教材コースウェアを利用する「SCORMフォーマット(注)」「LAMSフォーマット」などがある。

授業日程を明示しやすいのは、授業日が表示される「ウィークリー」だが、祝祭日などは考慮されないため、〔週/トピックの数〕の設定には考慮が必要である。次年度以降、流用することを考えると、回数表示のみの「トピック」が扱いやすい。

The screenshot shows the 'Course Edit' form in Moodle. Key elements include:

- Format:** Set to 'Weekly format'.
- Start Date:** 16/9/2008.
- User Login:** 'Site default (internal login)'.
- Course Enrollment:** 'Yes'.
- Useful Period:** Start date 15/9/2008, End date 15/9/2008.
- Useful Period:** Set to 'Unlimited'.
- Enrollment Period End Notification:** 'No'.
- Student Notification:** 'No'.
- Weekly Topics:** 10.
- Group Mode:** 'Group none'.
- Course Usage:** 'This course can be used by students'.
- Guest Access:** 'Do not allow guests'.
- Course Section Visibility:** 'Display non-visible course sections'.
- News Item Display:** 'Display 5 news items'.
- Activity Report:** 'No'.
- Maximum Upload Size:** '5MB'.
- Callings:** Fields for 'Teacher (single)', 'Teacher (multiple)', 'Student (single)', and 'Student (multiple)'.
- Language Policy:** 'Do not enforce'.
- Meta-course:** 'No'.
- Buttons:** 'Save changes' is highlighted.

図5：コース編集の詳細

続いて、実際の〔開講日〕を設定しておく。特にウィークリーフォーマットでは、隔週の日程表示の起算日となるため、開講日の設定は重要である。

その他の〔ユーザ登録プラグイン〕や〔コース登録可能〕などは、標準のまま

で構わないが、必要に応じて設定を変更するとよい。

たとえば、[利用有効期間]は、無制限ではなく150日を指定しておく、次学期までには履修生がクリアされるため、都合がいい。[グループモード]は、クラスを分割する場合や、クラス内でグループ活動を行う場合に利用できる。

実際の履修生のみをコース利用を限定したい場合には、[登録キー]を設定しておき、初回の授業などで学生たちに入力を指示する。あわせて[ゲストアクセス]を「許可しない」設定しておくことで、履修生以外の閲覧や、誤ったアクセスを防ぐことができる。

[言語の強制]は、学生に表示する画面メニュー言語を指定することもできるため、語学科目などでは、すべての表示を指定した言語にすることが可能となる。すべての設定を終え、「変更を保存する」ボタンを押して編集を終了する。しばらくすると、完成したコースが表示され、画面中央には設定した「週/トピック数」にあわせた空欄と、ニュースフォーラムのみが表示される。

4. コース設定の確認

完成したコースの設定は、画面左側の管理メニューにある「設定」から、いつでも変更できる。また右上にある「学生モードの開始」ボタンを押すことで、学



図6：コース設定の確認



図7：学生モードの開始

生からどのように見えているかを確認できる。

なおMoodleでは、教師自身がコースを削除する機能は用意されていない。これは、誤って学習中のコースを削除するこ

とを避けるためと、コース名やカテゴリ名を変更すれば流用が可能であるためと考えられる。このため練習で作成したコースや、多くの学習コンテンツをまとめて削除したい場合などには、管理者に削除を依頼することになる。筆者らのサイトでは、不要なコースのカテゴリを「削除予定」カテゴリへ移動させることで削除している。

5. フォーラムと学習活動

ウィークリーやトピックフォーマットのコースアウトラインには、最初は「ニュースフォーラム」のみ表示されている。

なお、教師画面では管理メニューに「教師フォーラム」も表示されている。これはひとつのコースを、複数の教員が担当するリレー講義などでの連絡用フォーラムである。当然ながら、教師用フォーラムは学生画面には表示・利用できない。

ニュースフォーラムは、通常は、教員のみが書き込みでき、履修学生は閲覧と返信ができる。あらかじめ設定すれば、書き込み内容をメールで自動送信することもできる。教員は、いつでもメール購読ユーザを表示したり、また追加削除したりすることができる。また学生自身にメール購読を選択させたりすることもできる。このため、課題の提示など履修学生に限定した授業に関する連絡に利用さ



図8：教師用フォーラム

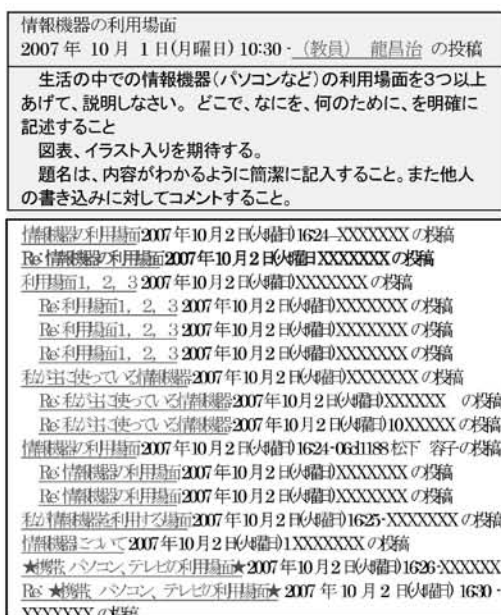


図9：フォーラムでの課題と投稿例

れる。

なお、標準設定では、学生がフォーラムに投稿すると、自動的にメール購読が設定される。課題フォーラムなどでは大量のメールが配信されることになり、注意が必要である。特に、大学のメールア

ドレスに対して、着信メールを携帯電話などに転送設定していると、連続して携帯電話が鳴ることにもなりかねない。

フォーラムは、もっとも手軽な学習活動コンテンツとして、授業ごとに手軽に設置・利用できる。学生たちに自由に書き込ませるのではなく、毎回の授業でトピック課題を与えて、フォーラムに投稿するように指示すれば、通常の授業では見られないような活発な相互議論が展開されることもある。時には、数日間にわたって深夜にまで展開され、授業改善へのヒントとともに新たな授業展開の可能性を感じさせられる。

これらの学生に表示・提供される学習活動コンテンツは、「編集モードの開始」ボタンを押して追加していく。

次号では、もっともよく利用される学習コンテンツである小テストとレポート課題の設定と利用例について説明する。

参考

筆者の運営するMoodleサイト

<http://joint.aichi-u.ac.jp/mod16/>

Moodle バージョン 1.6.3

Mysql バージョン 5.0.45



図10：フォーラムの購読設定

注) SCORM (スコーム) : Sharable Content Object Reference Model ラーニングシステムの学習システムやコンテンツの相互運用性を保証するための標準規格として、標準化団体 ADL (Advanced Distributed Learning) により定義・公開されている。LMS互換のコースウェア教材として、市販品など多くのパッケージ教材も開発・提供されている。